

ふりがな 氏 名	なかじま たえこ 中島 妙子 (文芸)
功績概要	平成２３年 姫路地方文化団体連絡協議会 姫路文化賞 平成２４年 姫路市芸術文化年度賞 平成２５年 小説集『無為つれづれ』出版 令和 ２年 『クロノスの庭』出版 令和 ５年 『椎名麟三の文学』出版 現在 「姫路文学」「安藝文学」同人、兵庫県現代詩協会会員 著書 詩集『メビウスの輪』（昭和５０年）、詩集『メトセラの村』（昭和６０年）、詩集『陽を食む』（平成９年）、小説集『空を舞う手』（平成２３年）、小説集『花贄』（平成２４年） 宍粟市山崎町出身。中学校教諭在職中から詩作を続け、「姫路文学」の復刊を機に詩作と並行して小説の執筆活動を開始する。以降「姫路文学」の中心的作家の一人として活動し、１３２号から１３４号まで「姫路文学」の編集長を務めた。 長い教師生活と家庭人としての経験を背景に、人の深層を見つめる作風で人間の持つ生命力の強さを描いている。また、姫路出身の小説家椎名麟三の円熟した読者としての側面を持つ。 令和２年の『クロノスの庭』では職場でのいじめをテーマに、同性愛、在日コリアン、家庭内暴力など社会的問題を包摂した作品を発表。令和５年発行の『椎名麟三の文学』では、没後５０年を迎えた椎名麟三の詳細な作品梗概を交えながら、一読者としての考察を集大成。同書は椎名文学の入門書として貴重である。 長年にわたる創作活動を通して姫路の文化振興に大きく貢献しており、その功績は大である。